

下呂市地域公共交通網形成計画（案）に対していただいたご意見と下呂市の考え方

No.	いただいたご意見の要旨	下呂市の考え方
1	<p>下呂市は国道 41 号線、J R 高山本線の幹線とそこまで行くための交通手段確保が公共交通網形成のカギになると考えます。幹線に行くまでの公共交通網を集落単位で乗り合い自動車を走らせるのです。まだ動ける年寄りが運転手となり、1 日朝、昼、夕方と 3 便自動車を駅、または買い物場所へ走らせる。経費＋人件費は区で利用対象者から徴収すれば良い。保険制度のような形にすればいいです。大きな予算を動かさないでも地域で考えさせることで、実践に動けます。最小自治単位でやってみることでブレイクスルーは望める。そう考えています。</p>	<p>本計画でも幹線交通の維持・向上はもとより、支線交通の運行形態見直しを重点事業として掲げ、通院や買い物をはじめとした幹線への接続を主とする運行形態に見直す地域があります。また、今後もそうした形態に切り替わる地域が増えていくと考えています。</p> <p>地域住民等に運行を担っていただくことについては、持続できる仕組みとともに体制作りが重要であり、実施するにはまだまだ検討が必要だと考えています。</p>
2	<p>今までの公共交通会議で提起されている内容については、それなりに目を通していますが、利用者と行政の認識に乖離があります。必要な時間帯にバスがなく、必要でないところに空車が走り続けています。現状は買い物難民、通院弱者があふれてきています。</p> <p>バスの一元化を含めて、行政、運送業者、社協、病院などが連携して取り組む必要を痛感しています。</p>	<p>現ダイヤに様々な要望があることは認識していますが、運行上の問題もあり、全ての要望に応えることは困難なことはご理解いただきたい。</p> <p>今後、地域特性にあった多様な公共交通を目指し、地域住民はもちろん関係機関・団体と連携し、利用しやすい、また利用していただける公共交通の構築に取り組みます。</p>